

| | | | |
|---------|--|-----|-------|
| 学年・在籍学級 | 小学校5年・通常の学級 | 氏 名 | 富山 一郎 |
| 障害名等 | 注意欠陥多動性障害 (ADHD) 知的発達に遅れはなく、週に1時間、通級指導教室を利用している。 | | |

収集した情報(障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集)

- ・注意欠陥多動性障害と診断されている。自己管理で服薬しているが、飲んだり、飲まなかったりする。(健)
- ・集会等、人の話を聞く場面では、じっとしておられずにそれぞれ手を動かしたり、その場に留まっていられなくなったりする。(人)(環)
- ・友達が言ったことに敏感に反応して、暴言を吐いたり、暴力を振るったりする。(人)
- ・自分の感情を言葉でうまく表現できず、トラブルになることがある。(人)(コ)
- ・注意されると「どうせ～」と言い、反抗的な態度をとる。(心)(人)
- ・年下の子と遊ぶことが多い。(心)(人)(コ)
- ・友達に自分の好きなアニメに関する話を一方的にする。(人)(コ)
- ・役割を与えられたり、取組を認められたりすると、熱心に活動する。
- ・剣玉が好きで、時間はかかるが技の習得に粘り強く取り組んでいる。
- ・アニメが好きで、好きなキャラクターのグッズを集めている。
- ・机の上やロッカー付近に体操服やリコーダーなどが散乱した状態になっていることが多い。(健)(環)
- ・忘れ物が多い。忘れ物をしたときは、授業に参加することを拒否する。(環)(心)
- ・やることや活動内容等は、文字等を見ながら説明を聞く方が理解しやすい。
- ・解答欄を間違えなどのうっかりミスが多い。(環)
- ・できないことや失敗が繰り返されることにより、学習に対する意欲が低下している。(心)
- ・計算問題を解くことに自信をもっており、多少間違いはあるが素早く解くことができる。
- ・地図を見るのが好きで、県名を全て覚えている。

<将来期待する姿>

- ・卒業までに、円滑なコミュニケーション手段を段階的に獲得し、友達とトラブルなく過ごせるようになっている。



- | | |
|--------|--|
| 整理した課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションに困難さがある(言い方が分からない、語い力、相手の表情や気持ちが分からない) ・感情や行動のコントロールが難しい ・見通しがもちにくい ・忘れやすい ・自己肯定感が低い |
|--------|--|

指導目標(ねらい) ※主語は子供

- ・小集団において、気持ちを伝える言い方や場にに応じた言い方を知り、場面に応じたやりとりができる。
- ・衝動的な言動を自分自身でコントロールする方法を知り、適切に振る舞える場面を増やす。

必要な配慮 ※主語は教師

- ・見通しがもてるように、予定等を視覚的に提示する。
- ・忘れないように、事前に声を掛けたり、片付ける場所を決めたりする。
- ・自己肯定感を高めるため、成功体験を積めるような活動を取り入れる。

項目の選定

| 健康の保持 | 心理的な安定 | 人間関係の形成 | 環境の把握 | 身体の動き | コミュニケーション |
|-------------------------------|---|--------------------------|---|---------------------------------|--------------------------------|
| □ (1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関すること。 | □ (1) 情緒の安定に関すること。 | □ (1) 他者とのかかわりの基礎に関すること。 | □ (1) 保有する感覚の活用に関すること。 | □ (1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。 | □ (1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること。 |
| □ (2) 病気の状態の理解と生活管理に関すること。 | ☑ (2) 状況の理解と変化への対応に関すること。 | ☑ (2) 他者の意図や感情の理解に関すること。 | □ (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること。 | □ (2) 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用に関すること。 | □ (2) 言語の受容と表出に関すること。 |
| □ (3) 身体各部の状態の理解と養護に関すること。 | ☑ (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。 | ☑ (3) 自己の理解と行動の調整に関すること。 | □ (3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関すること。 | □ (3) 日常生活に必要な基本動作に関すること。 | □ (3) 言語の形成と活用に関すること。 |
| □ (4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること。 | | □ (4) 集団への参加の基礎に関すること。 | □ (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること。 | □ (4) 身体の移動能力に関すること。 | □ (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。 |
| □ (5) 健康状態の維持・改善に関すること。 | | | □ (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。 | □ (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。 | ☑ (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること。 |

- | | | |
|----------|--|---|
| 具体的な指導内容 | ア 身近な教師や友達に、自分の好きなことや得意なことを伝えたり、質問されたことに対して適切に受け答えしたりする。 | イ 学校の中で起こる様々な場面で教師と一緒に振り返り、相手の気持ちを知り、適切な言動を考える。 |
|----------|--|---|